

平成二十五年第三回定例県議会 提案理由説明要旨

平成二十五年第三回定例県議会の開会にあたり、県政諸般の報告を申し上げ、あわせて今回提出しました諸議案の概要について説明申し上げます。

一 諸般の報告

(1) 全国高等学校総合体育大会について

北部九州四県で開催した全国高等学校総合体育大会が、八月二十日に無事終了いたしました。

皇太子殿下には、総合開会式への御臨席や競技の御覧を賜り、また、高校生や地域の皆様とも親しくふれ合っていただきました。

何よりも、県内チームの選手並びに監督・コーチの皆さんには、力の限り戦い、優勝が四種目、ベストエイト以上が五十四種目と大健闘していただきました。

大会の主役は高校生。総合開会式での歓迎演技や企画運営などに多くの高校生が、若い力で存分に活躍してくれました。

大会を通じて、一万一千人を超える選手・監督・コーチや、二十四万人を超える観覧者を県民挙げて心のこもったおもてなしで歓迎し、交流の輪を広げるとともに、大分県の魅力を全国に発信することが出来ました。県民並びに関係各位に厚くお礼申し上げます。

この気運の盛り上がりを今後のスポーツ振興や地域振興など、大分県の元気につなげてまいりたいと思います。

(2) 安心・活力・発展プランについて

元気と言えば、景気が気になるところです。国内の景気は、全体として着実に持ち直してきており、自立的回復に向けた動きもみられます。県内においても、ようやく個人消費などに緩やかに持ち直しの動きが広がりつつあります。これが、生産拡大や設備投資などに繋がっていけば、と期待しています。

県としても、この機に、安心・活力・発展プランの取組を加速し、地域の元気創出に努めてまいります。

このため、農林水産業の構造改革や中小企業への支援、創業促進などを展開するとともに、ツーリズム戦略を推進してまいります。

特に、ツーリズムについては、今年上半期の宿泊客数が前年を六万八千人、三・四%上回るなど「日本一のおんせん県おおいた」としての知名度も上がってきています。ここでもうひと押しするために、福岡圏域や関西圏域、首都圏域などでターゲットを絞った効果的な誘客対策を行います。

ツーリズムはもとより、経済の活性化に向け海外戦略にも力を入れていきます。八月二十日から四日間、大分県・モンゴル関係促進協会の訪問団と共に、名誉団長として初めてモンゴルを訪問しました。豊富な資源を背景にした経済発展の勢いを感じるとともに、アルタンホヤグ首相との会談では、「人・技術・ものなど様々な交流を進めたい。」とのお話をいただきました。

さらに、十一月には、観光客数が増加傾向にある香港において、三回目となる香港プロモーションを行い、国内外から元気を取り込んでまいります。

(3) 地方財政を取り巻く状況について

景気回復を促進し、安心・活力・発展プランの取組を加速するためにも、これを支える財政基盤を確かなものにすることが重要です。

その観点から、国の財政運営の動向が、大変気になるところですが、先に公表された国の中期財政計画では、基礎的財政収支の改善に積極的に取り組むとしています。特に、地方財政に関しては、一方で、地方の一般財源の総額について、二十五年度地方財政計画の水準を下回らないと言いつつ、他方で、リーマンショック後の危機対応モードとして設けられた一兆五千億円の歳出特別枠の見直しも示されており、予断を許さない状況です。

これから本格化する二十六年度予算編成に向け、国の動向を注視するとともに、知事会などを通じて、必要な財源の確保を国へしっかりと働きかけていきます。

二 提出議案の説明

次に、提出しました諸議案の主なものについて、その内容を説明申し上げます。

(補正予算案の概要)

はじめに、一般会計補正予算案であります。今回補正します額は、三十八億二千四百五十九万三千元であり、これに既決予算額を加えますと、五千八百五十七億八千七百六十九万五千元となります。

今回の補正予算は、おおいた元気創出基金などを活用し、地域振興や産業振興、それに医療・福祉の充実といった喫緊の課題について対応するほか、二十四年度決算剰余金の積み立てなどを行うものです。以下、事業の内容について説明申し上げます。

国東半島宇佐地域の世界農業遺産については、坐来おおいたを活用した首都圏でのPR活動をはじめ、農業文化公園内に学習コーナーを整備するなど、地元や関係団体の自発的な取組を後押しするほか、シカの食害からクヌギ林を保全する活動や来年度作付米の高付加価値化に向けた取組を支援します。

日本一を誇る本県の乾しいたけについては、消費が減少し価格が低迷するなど、大変厳しい状況にあります。このため、都市圏における販売促進を強化するとともに、原木しいたけの生産意欲を後押しするため、臨時・緊急措置として、ほだ木の造成経費に助成します。

九月下旬の日本ジオパーク認定を目指している姫島村及び豊後大野市に対して、日本ジオパーク公開審査などで指摘された今後の研究課題に着実に対応するため、地形や地質、動植物などの追加調査を行います。また、国内の研究者や火山という同じ特性をもつアジアの世界ジオパーク関係者を招いて、来年二月に国際フォーラムを開催し、国内外へ大分のジオパークをアピールします。

製造業などで注目を集めている3Dプリンターについて、大分県工業連合会を中心に研究会を立ち上げるほか、企業向け専門講座や学生、女性をはじめとする県民向け地域・基礎講座を開催するなど、国の成長戦略に先駆けて取組を始めます。

本格的な高齢化社会を迎える中、在宅医療の充実も急がれます。医師会等を中心とした医療と介護などの連携拠点を各地域に整備し、より効率的・効果的な在宅医療体制の確立を目指します。

また、後を絶たない悪徳商法や詐欺被害を未然に防止するため、広報啓発を強化するとともにネットトラブル相談窓口を設置します。

このほか、二十四年度の決算剰余金二十三億七千九百余万円を財政調整基金、減債基金、県有施設整備基金に各々三分の一積み立てます。

これら歳出に対する主な歳入予算は、国庫支出金 九億七千五百余万円、繰入金 四億六千五百余万円、繰越金 二十三億七千九百余万円であります。

(予算外議案)

次に、予算外議案について説明申し上げます。

第九十七号議案 大分県立学校の設置に関する条例の一部改正については、高校改革推進計画に基づき、県立佐伯豊南高等学校及び県立佐伯鶴岡高等学校を発展的に統合し、新たに県立佐伯豊南高等学校を設置するものであります。

第百一号議案 平成二十四年度大分県一般会計歳入歳出決算の認定については、昨年度決算は、豪雨災害に伴う復旧・復興事業や国の緊急経済対策を積極的に受け入れたことにより、財政調整用基金が減少する一方、県債残高は増加しましたが、臨時財政対策債を除いた県債残高は十一年連続で減少させるなど、厳しい中でも財政の持続性を何とか確保したところであります。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終わります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。